

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月25日（金）稲のハゼ掛けが風により倒れたので、会員により修復した。 会員8名
10月29日（水）稲こぎ（再度突風で倒壊のため） 会員ほか8名
10月30日（木）籾摺り 会員ほか3名
11月 1日（土）厚東川水系協議会主催による厚東川バスツアーで、宇部市、小野田市、秋芳町の家族40名がビオトープを見学に来られました。 案内会員7名
11月 2日（日）本日の作業は、午前中は炭作りの為に山に木を切りに行き、その木を木炭サイズに薪割りをし、厩肥撒布をし、又蓮田、と止水池の水質調査を行いました。午後からは、ソバ刈りと人命救助（予定外です）を行いました。本日は一日作業のため、昼食に新米のおにぎりや、蕎麦を打って食べました。 会員27名
11月15日（土）今日の作業は休みでしたが、子供達と残ったソバの刈取りをし、数種類のドングリを拾ってプランターに植え替えしました。 会員10名
11月15日（土）11月のテーマは野鳥観察です。隊員12名と保護者7名とスタッフ7名が、野鳥保護の会の末村さんの説明で、遊ロード経由でビオトープ周辺の野鳥を観察しました。4月に掛けた巣箱を分解して中を確認しましたが、使用されていませんでした。 会員8名

2. 今後の予定（事務局 記）

- 見学者
12月18日（木）宇部西高等学校 伊藤先生他生徒30名予定 ご案内役？

行事

- 12月5日（金）餅つき準備
12月6日（土）餅つき
12月20日（土）ソバ打ちと炭焼き
12月23日（月）炭焼き取り出し

3. 里山自然観察隊の参加者より

里山自然観察隊に参加して（中川智裕君の保護者 中川順子さん 記）

里山自然観察隊に参加して半年がたちました。毎月一回、テーマに沿ってビオトープの生き物や植物などの観察を行っています。指導員の方々のアイデアのもと、楽しみながら学習できる良い機会だと感謝しています。

10月は秋の草花についての観察でした。秋の七草？ 秋にもあるんだ・・・七草がゆ・・・。いえいえ、春は食べる七草ですが、秋は見る七草でした。ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ。うっ・・・ススキとキキョウしか分からない などと頭の中で悪戦苦闘しつつ観察へ出掛けました

さて、ビオトープの周辺にはどんな草花があるのだろう。指導員の方に草花の名前を聞き、色や葉の形などを観察しました。ヨメナ、コムラサキ、ツワブキ、サワヒヨドリ、次から次へと名前が飛び出してきました。ガマという植物・・・どこが花なんだろう、フランクフルトのようなこれは実？。セイタカアワダチソウはイヤというほどありました。まだ、スイレンやヒルガオもみることができました。きれいに整備されたビオトープには、可憐なコスモスが揺れていました。四季折々のビオトープに気持ちも癒されます。約二時間かけた観察は、あっという間でした。

観察隊初回のお話の中で、経験するという事はとても大切な事です というお話がありました

子供たちは、「聞いたこと」は「忘れる」

でも、「見たこと」は「思い出す」

そして、「経験する」と「理解する事ができる」

その後は「発見したこと」を「身に付けていきます」というお話でした。

なるほど・・・

この里山観察隊をきっかけに自然について、生き物について、それらを大切にしていくことについて、体験し、身に付けていくことでしょう。何十年後かには、昆虫博士？植物博士？の誕生もなきにしもあらず・・・

最後に、子供たちを地域の皆で大切に育てていこうという指導員の方々の あたたかい気持ちも感じずにはおれません。これからも、二俣瀬ビオトープがたくさんの人々に愛され、里山観察隊も二年目、三年目と続けていきたいと願っています。記念すべき第一期生の親子となれて、うれしい限りです

4. ピオトープ関連 (ピオトープ周辺の植物) 美濃和 信孝

ウメモドキとガマズミ

晩秋のピオトープ周辺の野山を彩る赤い実。今回はウメモドキとガマズミをご紹介します。

両方とも落葉低木で、須賀河内川沿いに自生しています。絵には葉っぱのついたようすを描いていますが、葉が落ちて、実のつき方が異なるので、遠目で見てもどちらの木かは一目瞭然です。ウメモドキは枝の回りに2~4個づつ実がついて、枝が実で覆われるような感じになるのに対し、ガマズミは枝先に数10個の実がかたまっています。ガマズミの実のようなつき方を、植物用語では「散房状につく」といいます。葉のつき方も、ウメモドキは互生、ガマズミは対生と明らかに違いがあります。実の中の種の数は、ガマズミは1個ですが、ウメモドキは5個です。

ウメモドキは、根元を沢の水が洗うような湿地、それもマサ土の場所を好んで生えているようです。関東でこの木を見たことがないのは、土質の違いによるのではないかと考えています。同じモチノキ科に属し、赤い実をつける落葉樹の仲間としてはアオハダがあります。昭和山に向かう沢沿いに、株立ちした1本のアオハダの大木がありますが、実はありませんでした。アオハダも、ウメモドキと同じく雌雄異株なので、この木は雄の木だからなのでしょう。

目立つ赤い実は、もちろん鳥に食べてもらって種子を散布してもらいたいのが狙いです。留鳥のヒヨドリだけでなく、冬になるとやってくるジョウビタキやルリビタキも、これらの実を食べているはず。ガマズミの実は、人間が食べても甘酸っぱい味にして結構いけますが(ガマズミのスミは酸実という意)、果実酒としてもいい色のお酒に仕上がります。一度お試しになってはいかがでしょうか。



ウメモドキ (モチノキ科)



ガマズミ (スイカズラ科)

5. ピオトープ関連 (連載ピオトープ近辺の案内) 事務局 原田満洲夫

車地八景のその3 (木潭の夕照)

木潭とは現在の木田を表すが晩秋の夕方車地から木田側を見るとそれは大変美しい夕焼けが見られる。このことを車地八景の1つとしてあげたものです。

参集日少し残って水車のところからこの景色を眺めたいかがでしょうか。大正の初期に無かった水車がプラスされた情緒がさらに美しさを増すことでしょう。

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

- 1 1月1日 川にカメがいました。びっくりしました。ハヤにごはんをあげたら全部たべました。赤いトンボがかわいいです
残念ですが名前等がありませんでした。
- 1 1月3日 川には魚がたくさんいます。池には何にも見当たりません。全体が草刈できれいに整備されています。感心です。
これにも名前等がありません残念です。
- 1 1月15日 今日お友達とめだか取りに行きました。採ろうとしたけど取れませんでした。2回挑戦してやっとのことで、とれました。早く苦勞しました。ここはとっても緑の自然がありました。琴芝小学校にも緑の芝があります!

琴芝小三年2組 渡辺英喜

7. 会よりの連絡事項

1) 地球温暖化防止ネットワーク協議会からのアンケートを提出

ピオトープをつくる会としての環境問題の取り組みとして水浄化のための木炭製作を取り上げて、問題点として今後継続して木炭を交換することや、追加製作補充するため炭焼き窯(山口県林業事務所所有の窯等)の購入資金が無いことを上げておきました

2) 12月18日宇部西高校来訪時のご案内役3名程度お願いします。

8. 編集後記

先月、工場地帯のど真中にあるビオトープに行ってきました。横浜鶴見区にあり、東京ガスが運営する環境エネルギー館の屋上に作られています。このビオトープについて一言。

このビオトープは、100%人工的に作られたものです。目的は、環境教育・都市の自然再生・建物の屋上緑化であると、この施設のスタッフから説明を受けました。私は、これらに加え企業のアピールが、大きな比重を占めているのではないかと考えています。

このビオトープには、狭いながらも、わが里山ビオトープ二俣瀬から田畑を除いた、すべての施設が揃っています。植物250種・動物160種が確認されていますが、150種の植物およびメダカ以外は、外から勝手に入ってきたものです。この施設を利用して、小学生を対象とした観察教室も開かれています。また、団体の見学も多いようです。これらの点から判断すると、当初の目的は果たしているようです。ただ、私が気になったのは水です。

ビオトープには、二つの池と、これらを結ぶ小川が流れています。この水の確保と、水質の維持に、相当お金がかかっているようです。しかし、水辺が無くなれば、ビオトープとしての魅力が半減します。たとえば、ここでの観察教室の内容には、水に関するものが多くを占めています。日本のビオトープでは、水辺が不可欠なものなのでしょうか？

取留めのないことを書きましたが、皆さんも機会があれば、このビオトープを訪れてみてください。環境エネルギー館も含めて、考えさせられることが、たくさんあります。

(前田 歳朗 記)